

# 2020年12月期 第3四半期業績概要

---

2020年11月13日  
日東精工株式会社  
(証券コード 東証1部:5957)

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円/%	19年12月期 第3四半期		20年12月期 第3四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	25,503	100.0	23,459	100.0	△2,044	△8.0
売上総利益	6,234	24.4	5,385	23.0	△849	△13.6
販売管理費	4,306	16.9	4,621	19.7	314	7.3
営業利益	1,928	7.6	764	3.3	△1,163	△60.4
経常利益	2,072	8.1	881	3.8	△1,190	△57.5
税金等調整前四半期純利益	2,162	8.5	880	3.8	△1,281	△59.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,383	5.4	489	2.1	△893	△64.6
一株当たり当期純利益（円）	37.20		13.31			

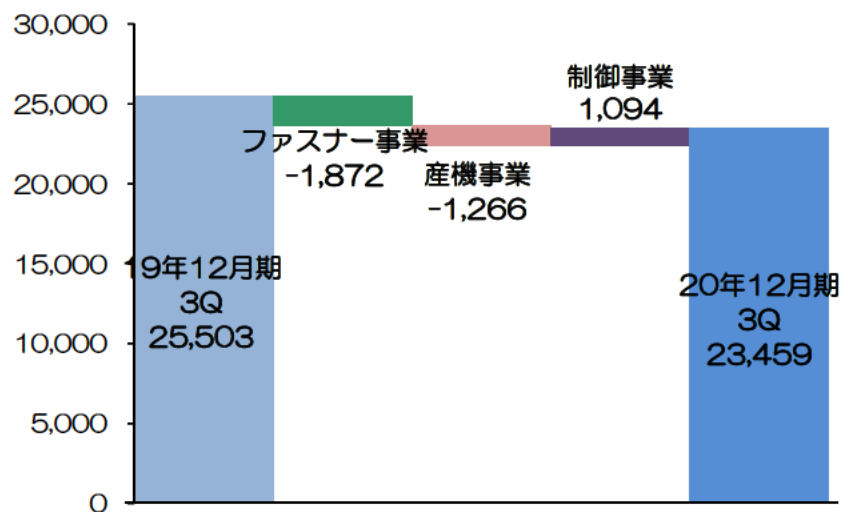
- 昨年6月に松浦屋を、今年4月に日東精工アナリティックを連結子会社化するなどグループの事業再編を実施し、売上高の拡大に寄与するも、コロナ禍による国内、海外子会社の受注減少の影響は大きく、△8.0%の減収。
- 減益ながら、グループ挙げて費用圧縮や改善活動を展開し、この環境下でも一定の利益を確保。
- 巣ごもり（外出制限）製品の主力となるゲーム機の増産により、当社精密ねじが好調で利益創出に貢献。
- 利益面で業績を牽引していた産機事業について設備投資の延期、凍結が増加し、売上以上に利益を押し下げた。

# セグメント別売上高・営業利益（連結）

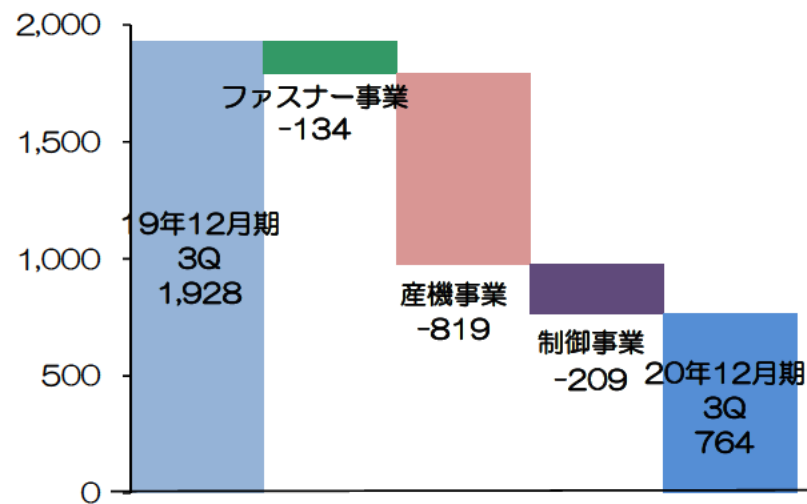


単位：百万円/%		19年12月期 第3四半期	20年12月期 第3四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	18,463	16,591	△1,872	△10.1
	営業利益	338	204	△134	△39.7
	利益率	1.8	1.2		
産機事業	売上高	5,431	4,165	△1,266	△23.3
	営業利益	1,484	664	△819	△55.2
	利益率	27.3	16.0		
制御事業	売上高	1,608	2,702	1,094	68.0
	営業利益	105	△104	△209	—
	利益率	6.5	△3.9		

セグメント別売上高増減



セグメント別営業利益増減



単位：百万円/%	19年 第3四半期	20年 第3四半期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	18,463	16,591	△1,872	△10.1
自動車	6,270	5,974	△296	△4.7
住宅・建築	3,382	2,965	△417	△12.3
電機・電子部品	3,254	2,835	△419	△12.9
雑貨	1,215	1,670	455	37.4
IT・情報機器	1,294	984	△310	△24.0
精密機器	924	608	△316	△34.2
エネルギー関連	256	182	△74	△28.9
その他	1,868	1,373	△495	△26.5
営業利益	338	204	△134	△39.7

- 新しい子会社の拡充と精密ねじの大幅増が売上に寄与するも、世界的な購買意欲の減退ならびに生産活動の一時停止の影響をカバーしきれず。

## ◆自動車業界

- 松浦屋の子会社化が売上に寄与するもコロナ禍の影響により、自動車業界の生産が低迷。

## ◆電機・電子部品

- コロナ禍の影響により、国内、海外需要ともに低迷。

## ◆住宅・建築

- オリンピックの延期ならびにコロナ禍による住宅着工減により、販売減少。

## ◆雑貨

- ゲーム機の好調により、精密ねじが大幅増。

## ◆IT・情報機器

- コロナ禍の影響により、国内、海外ともに低迷。

単位：百万円/%	19年 第3四半期	20年 第3四半期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,431	4,165	△1,266	△23.3
自動車	3,747	2,864	△883	△23.6
電機・電子部品	689	468	△221	△32.1
住宅・建築	87	165	78	89.7
エネルギー関連	112	100	△12	△10.7
遊技機	28	55	27	96.4
IT・情報機器	118	49	△69	△58.5
雑貨	34	11	△23	△67.6
その他	616	453	△163	△26.5
営業利益	1,484	664	△819	△55.2

- 自動車関連を中心に、全体的にコロナ禍の影響により、設備投資は見合わせとなり、売上の減少となった。
- 海外は、国内同様に全体的に引き合いは低迷した。

- ◆自動車、電機・電子部品
  - 生産台数の減少により、設備投資は抑制、延期。
- ◆住宅・建築
  - 施設などの床の歪み調整に使用する器具の生産設備を新規受注。
- ◆エネルギー関連
  - 家庭用電池組立の引き合いはあるものの、設備投資が延期等計画変更。
- ◆IT・情報機器
  - スマートフォン関連の仕事を一定量確保したものの、期待していた基地局関連の設備投資が延期等計画変更。

単位：百万円/%	19年 第3四半期	20年 第3四半期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	1,608	2,702	1,094	68.0
化学・薬品	93	812	719	773.1
エネルギー関連	17	341	324	—
住宅・建築	448	244	△204	△45.5
造船	162	165	3	1.9
自動車	243	74	△169	△69.5
医療	その他に 含有	91	91	—
食品	52	78	26	50.0
その他	593	897	304	51.3
営業利益	105	△104	△209	—

・4月に子会社化した日東精工アナリティックの売上寄与により、セグメントの売上が大幅増加。しかし、企業取得に関わる費用の計上ならびに、好採算製品である地盤調査機や部品検査装置の低迷により、収益面では大幅な減益。

### ◆化学・薬品

・日東精工アナリティックの子会社化が売上拡大に寄与。

### ◆エネルギー、医療

・日東精工アナリティックの子会社化が寄与。

### ◆住宅・建築

・コロナ禍の影響により、住宅着工数が低迷し、地盤調査機「ジオカルテ」が減少。

### ◆自動車

・生産台数の減少により、部品検査装置「ミストル」の案件が、凍結、延期。

### ◆食品

・巣ごもり需要により、家庭用調味料やインスタント食品が好調で、食品、飲料メーカー向け流量計が牽引。

## 2020年12月期（連結）業績予想

単位：百万円/%	19年12月期		20年12月期（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	34,857	100.0	32,500	100.0	△2,357	△6.8
営業利益	2,596	7.5	1,200	3.7	△1,396	△53.8
経常利益	2,853	8.2	1,300	4.0	△1,553	△54.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,937	5.6	700	2.2	△1,237	△63.9
一株当たり当期純利益（円）	52.08		19.01			

- コロナ禍の影響で自動車関連を中心に国内外ともに、第2四半期まで受注が減少、第3四半期より国内を中心に受注が回復に転じ、売上ベースでは第4四半期に増加を見込むが、通期では主力のファスナー・産機事業が減収。
- 一方制御事業は、今年4月に子会社化した日東精工アナリティックの売上寄与により大幅な増収。
- 利益面では、グループを挙げての経費削減や生産性向上に取り組むも、売上高の減少の影響や、M&Aによる株式取得費用の計上などにより、大幅な減益になる見込み。